

## 令和2年度の重点目標

- 1 諸活動への取り組みを奨励し、心身ともに健康で主体的に学び合う活力ある生徒を育成するとともに、本校の特色化を推進する。
- 2 全職員の共通理解のもと生徒の意欲を高め、学力の向上と進路意識の早期確立を目指し、生徒の自己実現を図る。
- 3 地域社会との連携を更に推進し、望ましい生活態度の確立と社会に生きる人間としての自覚を培う。

## 令和2年度 努力目標及び具体策

### 1 教務部

評価基準    A：達成できた    B：おおむね達成できた    C：あまり達成できなかった    D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 学習指導要領に基づく教育課程を確実に運用し、新しい大学入試に対応する力を養成する。	(1)各学年の教育課程の実施状況を検証し、問題点を明確にする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題なく教育課程を適切に実施できている。</li> <li>・休校の中、授業時数を確保出来たのはよかった。</li> <li>・教育課程検討委員会などで新課程を検討し、現課程も検証できた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した新教育課程の実施に向け、情報収集・研究・計画し、新課程への円滑な移行を目指す</li> </ul>
	(2)特色選抜・一般選抜の実施方法を十分検討し、入試が円滑に実施できるように努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日体験は実施できなかったが、web 1日体験の内容がよかった。管理職を筆頭に中学校訪問で本校の魅力を十分に広報できた。</li> <li>・中学校訪問は全員で確実に実施できた。</li> <li>・志願者増のさざしが見え、HP等これまでの取組が実を結んだ。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施した広報活動を継続して行く。</li> <li>・訪問校の日時を調整して行く。</li> </ul>
3 各係が、創意工夫を重ね、見直すべき点を見直し、確実に職務を遂行する。	(1)前年度の改善意見を参考にし、新しい視点で職務にあたる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠の黒板記入は、未記入が少なくなった。</li> <li>・前年の改善意見を踏まえ、業務は円滑に遂行出来た。</li> <li>・時間割担当者が同一メンバーが多い。チャイム設定出来る者が少ない。</li> <li>・教員数減を考えると、業務の精選が必要。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割係、チャイム係について分担を検討して行く。</li> <li>・業務の効率化・必要性について今後も話し合っていく。</li> </ul>
	(2)係ごとの職務分析を明確にし、確実に職務を遂行する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に各職務のあり方を考えながら、またコロナ禍で出来た仕事にも改善案が練られ、予定通り遂行できた。</li> <li>・コロナでさまざまな職務が大きく変わり、分析まで至らなかった。</li> </ul>

・教員数減を見据え、確実な職務引継ぎのため電子データ・紙媒体を整理して行く。

## 2 学習指導部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の学習意欲を喚起することで、基礎学力の定着・向上を図ると共に、より高い学力の習得を目指す。	(1) 授業準備・始業前着席を推奨し、授業の工夫に努め、基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業準備は良好だったが、基礎・基本の定着が図れたとは言いがたい。</li> <li>・始業前着席は、かなりよくできている。</li> <li>・チャイムと同時に授業を始めることができている。</li> <li>・4、5月の休校分を取り戻そうと、各教科とも工夫して授業を展開した。</li> </ul>
	(2) 学習ガイダンスや普段の指導を通し、高校生らしい学習習慣を定着させるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストや課題を精選し、繰り返し、復習ができる環境を整備したい。</li> <li>・生徒も教員も先を見据えて行動するように心がける。</li> <li>・HR担任、教科担任ともに普段から声かけをして定着させる。</li> </ul>
2 総合的な学習・探究の時間の充実を図る。	(1) 他の分掌・校内組織と協力し、総合的な学習・探究の時間に行う課題研究・進路学習の指導を効果的に行えるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の指導が学習習慣の定着につながっていない。</li> <li>・今年度は新型コロナの影響で、学習ガイダンスが例年どおり実施できなかった。</li> <li>・本年度はコロナ禍による休校等で予定どおりの授業ができなかったが、休校中の課題や予復習の指示、学習時間の記録を通して学習の習慣化を促した。課題や分散登校中に準備するものなどを各教科で対応し、学習指導部でまとめて配布することで、スムーズに授業が再開できた。</li> <li>・3、4、5月の学校休業の影響が大きかった。2年生は、学習習慣のついている生徒とそうでない生徒の差が大きくなっている。</li> <li>・4・5月に休校があったが、全学年後半になるにつれてリズムができてきたと感じた。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教科において粘り強く指導する。</li> <li>・中位、下位生徒の学習時間を増加させるのが課題である。</li> <li>・一部課題提出等の滞る生徒がいるので、個別、早めの働きかけ（指導）を行う。</li> </ul>
3 現職教育の充実を図る。	(1) 「共通テスト」の対策等、これからの時代に合う教育法を各教科・各教員が研究できるよう、資料や研修の機会を提供するように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総学の時間確保が難しい中、課題研究に取り組んだ。今年度は時間が少ない中、よくできていたのではないと思う。</li> <li>・他校の例を調査するなど、新学習指導要領を見据えた内容の検討が必要だと思う。</li> <li>・学年で連携しながら計画、実施することができた。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクールにより整備されたWi-Fi環境、タブレットを探究活動に有効に利用する。</li> <li>・ゆとりのある総学の計画をつくる。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談や働き方改革の研修が実施できた。</li> <li>・模試の結果を踏まえると、対策が取れているとは言えない。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テスト等、教科指導に関する研修を行う。</li> <li>・各教科で出題傾向を把握し、対策を取る必要がある。</li> </ul>

			ある。 ・「共通テスト」初年度で得られた情報を共有して次年度以降に活用する。
--	--	--	---

### 3 特別活動部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の自主的・実践的活動を促し、生徒会の活性化を図る。	(1) 前年度の反省を生かして、各種行事内容を十分に検討し、より充実したものにする。	A	・体育大会等、コロナ対策を取りながら行事を工夫して実施することができた。制約がある中で生徒が満足できる行事になった。 ・コロナで実施できなかった紫陽祭の準備は一昨年から学び、確実にする。
	(2) 各種委員会や一般生徒の協力を得ながら、役員が中心となって生徒会を運営する。	B	・体育大会等、生徒会長を中心に各係が良く活動してくれた。体育委員も準備や進进行を頑張っていた。 ・実施できなかった行事は引き継ぎが困難になる可能性がある。新旧役員で引き継ぎ会を行えないか検討する。
2 HR 活動における生徒の自主性を育成し、望ましい人間関係の形成を図る。	(1) 各種委員会活動とホームルーム活動の連携強化を進める。	B	・出席統計、交通等々、クラスの専門委員を中心に良く活動していた。が、紫陽祭中止の影響で連携の機会が減ってしまった。 ・紫陽祭の準備を一昨年から学び、確実に実行する。
	(2) LHRのクラス別活動時間の確保と生徒による活動を推進する。	B	・休校や行事変更がある中でも、活動に必要な時間確保はできていたが、クラス裁量の時間確保が難しい。 ・クラス裁量の時間を確保する。
3 部活動を活性化させる。	(1) 施設・設備の充実を図り、部活動の活性化に繋げる。	B	・コロナ対策の予算をつけられ備えられた。体育大会時購入したサッカーゴール等、平時でも活用できる設備投資ができた。 ・電気の修繕、部室の使い方など改善点が残る。 ・生徒会会計で、足銀のサービス見直しに対応できる準備が必要。
	(2) ホームページ等を通じて、広報活動を積極的に行い地域間の連携を図る。	B	・各行事はスムーズに更新できていた。HP「生徒会日誌」の活用方法を生徒と再検討したい。 ・生徒会や部活動の近況報告も気軽に更新できると良い。

### 4 生徒指導部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 統一された指導体制のもと、全職員が互いに協力、連携して指導する。	(1) 全職員で共通理解を図り、公平性を保った容儀指導を行い生活態度の確立を図る。	B	・タイツに関してルール変更があったが会議を通して、共通理解が図れた。また、情報の伝達ルートが明確で、指導も公平になされたが、容儀指導後、注意しなくなってしまうことがあった。 ・会議に参加できなかった職員への情報の共有を徹底できるとよい。
	(2) 渉外部と連携し、挨拶運動		・朝の立哨指導は、コロナ禍で回数を減らしての

	や朝の立哨指導を通して、生徒の動向を観察し全職員で生活指導にあたる。	B	実施だったが、よくできていた。それによって生活態度や服装が良く保たれている。 ・朝の立哨指導を R2 年度くらいの回数にする。
2 教育相談を効果的に生徒支援に活用している。	(1) 各部・各学年と生徒情報を収集・共有・活用して、個々の生徒の学校生活の支援、改善を図る。	A	・必要に応じて配慮を要する生徒の情報を共有し、学校生活の支援を図ることができた。 ・生徒指導部全体で配慮を要する生徒の情報を共有する機会をつくる。
	(2) SC や外部機関と連携を図りながら、教育相談の校内支援体制を構築し、充実を図る。	A	・SC と連携を図り、ケースに応じて対応するなど教育相談はよく機能してた。 ・年々 SC の世話になる回数が増えているが、その原因が何なのかを検証する。
3 交通安全及び社会規範に対する意識の向上を図る。	(1) 交通講話や自転車点検を実施して、交通安全意識の高揚を図り、交通事故被害件数をできるだけ少なくする。	B	・コロナ禍により交通関係の行事が開催できなかったが、生徒はよくルールを守っていた。 ・事故の際の警察への連絡の徹底を指導する。
	(2) いじめアンケート、種々の講話を実施し、外部機関と連携を図りながら社会規範に対する意識の向上を図る。	B	・コロナにより種々の講話の実施ができなかったが、いじめ等大きな問題はなかった。 ・講話の実施方法について工夫をする。

## 5 進路指導部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の志望や適性を把握し、進路の選択肢を増やすことで、1人1人の進路意識を高める。	・進路適性検査、進路探究ノートの活用や、進路講演会、大学見学、翔南一日大学、合格体験発表会等の実施により、キャリア形成を実践する。	B	・コロナ肺炎のために大学見学など、多くの行事が中止になった。生徒への影響も大きいと思われる、大変残念である。 ・規模を縮小しても実施する形を検討する。
2 入試方式の理解を深め、自己実現に必要な要件を確認させる。また到達目標を設定させ、その達成に向けて努力させる。	・進路検討会等を充実させるとともに、各種の進路資料を分析、検討して提供し、志望校決定のための適切な助言をする。また総合型選抜、学校推薦型選抜の研究を行う。	B	・今年の3年生は最初の共通テストの学年で、英語民間試験の導入延期など変更が多く、対応に追われた。検討会も判断の難しいことが多く、実施方法の検討が必要と思われる。 ・総合型、学校推薦型選抜の研究
3 志望進路の実現に必要な総合的な学力を養成する。	・大学入試センター試験や進路目標校の入試問題等を分析し、校内模試・実力テストの作問に生かす。また結果分析を充実させ、授業改善や生徒の学習指導に資する。 <u>(特に大学入学共通テストに関する情報の収集)</u>	B	・共通テスト対策は初年度のため、戸惑うことがかなり多かった。第1回のテストの分析が重要である。またテストとテストの間隔が短く、採点や結果分析の時間が不足している。特に生徒へのフィードバックが不十分である。 ・共通テストの分析を各教科で綿密に行い、対策を検討する。またテスト計画の見直しを行う。
4 保護者や地域社会への広報活動に努め、進路指導に関する理解と協力を得る。	・保護者面談、PTA総会、学年部会、支部会等を利用して進路情報を適切に伝える。	B	・学年部会が実施できたため、一通りの情報は伝えることが出来た。伝達方法の検討。 ・HP等を利用した方法も考える。
5 高大接続改革に関する情報を収集し、3年間の体系的な進路指導体制を構築する。	・調査書、活動報告書等の作成や、大学入試の出題傾向等に関する情報を収集し、周知、活用する。	B	・どうにか新様式の調査書を作成できた。他校の情報収集など、まだまだ研究の必要がある。 ・大学による利用方法の研究が必要である。

## 6 健康指導部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒一人ひとりが心と身体の両面から健康管理ができるように指導する。	(1) 生徒が、日頃から自分自身の健康について関心を持ち、積極的に健康管理ができるように一人ひとりに対し丁寧に情報提供やアドバイスをする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で生徒も職員も頑張って乗り切った感はあると思われる。ただ、一人一人に向けた指導は行われなかった。</li> <li>個々の生徒に対して丁寧に接しアドバイスをするよう心がけていきたい。</li> </ul>
	(2) 保健室を利用する生徒に対して、担任や関係する教員との連携を密接にして問題等を未然に防ぐようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任には連絡が入っていたが、関係職員への情報がなかったように感じる。</li> <li>出来るだけ問題等が起こらないように生徒の観察を細かくする。</li> </ul>
2 安全・安心な学校環境を整備する。	(1) 災害時等の緊急事態発生時における教職員への周知及び事後の対応を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の実施、対応の周知等はできていた。</li> <li>感染症の対策をしつつ、次年度も同等の訓練を行う。</li> </ul>
	(2) 救急患者等の対応方法を明確にするため、生徒及び教職員対象にAED講習会を開催する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍によりやむをえず行事の変更を余儀なくされたが、着衣水泳、熱中症対策等の講習会はできた。</li> <li>次年度も工夫をして講習会が行える事を臨む。</li> </ul>
	(3) 安全点検を年間3回以上実施し、危険箇所の詳細を把握し、早期に対応する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険場所の把握はできていたように思われる。しかし、改善が遅く、または修繕されなかったところがある。</li> <li>事務、公使さんとの連携を密にして改善を試みる。</li> </ul>
3 学校環境の美化活動を推進する。	(1) 清掃分担区や監督割の工夫を図り、全校除草を計画し実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒による除草作業が行われなかった。</li> <li>全校除草の計画、立案を試みる。たとえば、夏期課外の日程を利用し、学年ごとクラスごとの実施を試みる。</li> </ul>
	(2) 各清掃分担区において目標等を定めるなどして、積極的に取り組むように指導を継続して行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>分担区、監督の工夫をして欲しい。</li> <li>清掃分担区の範囲を考える。</li> <li>監督者が工夫できそうな範囲を考える。</li> </ul>

## 7 国際理解部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 国際化の進展に対応できる広い視野と自己表現力を持った生徒を育成する。	(1) 異文化体験をした生徒による体験発表の一層の充実を目指し、その体験を多くの生徒が共有できるようにする。 (例) ・オーストラリア語学研修(オー研)報告会(4月) ・紫陽祭でのオー研等展示発表実施 ・生徒向け啓発資料“MiniWorld”年数回発行 ・広報誌“Global Village”の発行	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施できなかった活動もあるが、現状に対応して、工夫しながら進めることができた。</li> <li>コロナ禍であったが、“MiniWorld”や“Global Village”の発行をすることができた。</li> <li>各行事に関してはコロナの状況を見ながら、開催に向けて検討していく。</li> </ul>

2 国際交流活動の活性化を図る。	(1) 「オーストラリア語学研修」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。また、担当業者選定を慎重に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は中止となったが、来年度実施に向けて、計画・業者選定を慎重に進めている。</li> <li>・来年度実施に向けて、コロナの状況を見ながら、内容の検討を進めていく。</li> </ul>
	(2) 「国際交流会」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大学」と「本校」とのリモート実施も含め検討を行ったが、留学生の通学状況や本校の Wi-fi 環境が整っていなかったため、実施できなかった。</li> <li>・環境が整う予定なので、何らかの形で実施したい。</li> </ul>
	(3) 受入及び派遣留学生に対する指導をきめ細かく行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で来日できなかった。</li> <li>・来年度受け入れ予定である。</li> </ul>
3 高教研国際理解教育部会および県高校国際教育研究協議会（国教研）等の事務局の職務を円滑に行う。	(1) 下記他の行事の準備・運営、また会計処理を円滑に行う。 ・役員会 ・総会および研修会 ・調査研究会 ・研究大会および講演会 ・国際理解英語弁論大会 ・国際理解弁論大会（日本語） ・研究紀要発行	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会は実施できなかったが、総会の書面開催、DVD 審査による弁論大会、内容を少し変更しての研究紀要発行など、コロナの現状に対応しながら、協力して仕事を進められた。</li> <li>・外部の機関や係同士の連絡を密に取り、来年度も滞りなく行事等を進めていきたい。</li> </ul>

## 8 渉外部

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 保護者および同窓会員との連携協力を密にし、特色ある活動の有効な実施をはかる。	(1) ふれあい挨拶活動と学校美化活動について、現状に対応した効果的な実施を工夫し、保護者の参加数向上を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい挨拶活動は役員のみ数日間の実施でも継続できたのは良かったと思う。</li> <li>・自転車置場のペンキ塗りには多数の保護者が参加してくれた。PTA会長をはじめ多くの方の関わりにより、自転車置場の塗装という大きな成果をあげることができた。</li> <li>・来年も先が見えない状況なので、より一層の配慮をしていく必要があるだろう。</li> </ul>
	(2) 同窓生の学校行事への参加を促進し、キャリア教育の観点から、生徒の意識向上を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 学年向けの、進路探求講演会やキャリア教育講演会など、非常に充実していたと思う。</li> <li>・今年度、こういう状況下でも、進路講演会等に同窓生の協力をいただくことができた。とても良かったと思う。</li> <li>・今後も同窓生の協力をお願いしたい。</li> </ul>
2 各行事への保護者の積極的な参加を促す。	(1) PTA行事（総会・研修旅行・学校美化活動）への保護者参加者数の向上を目指して、計画、広報を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会や研修旅行などの行事ができなかったのは仕方がない。学校美化活動については、会長・副会長をはじめとする本部役員の貢献が大きかった。もう少し参加しやすい活動を求める声もあったが、駐輪場塗装はこのような機会だからこそ実施できた行事だと思う。</li> <li>・来年度は本来の行事を実施できることを願う。</li> </ul>
	(2) 学校行事（学校祭・持久走大会）の協力活動について、改善できる点を明確にし、	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への協力は全くできなかった。駅伝大会には豚汁の代わりに栄養ゼリーとサブレを配布するなど、できる範囲で昨年度までとの断絶</li> </ul>

	内容の充実をはかる。		をなくすようには努めた。 ・来年度無事に行事が実施できることを願う。
3 P T A会計の適切な運用を検討する。	・ P T A諸会費に関する内規の改善をはかり、より有効な運用を目指す。	B	・今年度はP T A関係の徴収金の徴収内訳を変え、より活動しやすいものにするつもりだったが、このような状況のため、運用が十分にできなかった。 ・会計内規の改善については、P T A活動が旧に復してから判断したい。

## 9 1 学年

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、服装頭髪指導を計画的に実施し、生徒がきちんと制服を着用できるようにさせる。	A	・良く指導に従っている生徒が多い。 ・個に応じつつ、全体的に共通認識を持って指導できた。 ・夏→冬の靴下指導が行き届かなかった。 ・先生方に分担して頂きながらスムーズに出来た。 ・HR、学年集会等で全体注意の機会を設ける。
	(2) 特別活動（部活動や学外での活動など）への積極的な参加を奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。	A	・部活動加入率が高い。栃木南小ボランティアにも積極的に参加していた。 ・指導を継続していく。
2 主体的な学習習慣を習得させ、基礎力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の主体的な家庭学習時間：2時間以上（学年＋1時間）の確保を目指す。	B	・平日 53 %、休日 88 %の生徒が2時間以上取り組んでいる。 ・学習時間の確保は出来ていたと思われるが、課題が多く、主体的かかどうか疑問。 ・勉強習慣がついた生徒とつかなかった生徒の二極化が起きている。 ・全員に定着させるまで至らなかった。 ・習慣のつかない生徒にどのように勉強させるか考えたい。継続的に指導していく。
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせる。	B	・進研模試バインダーを正担任に早く回した方がより、教科指導に役立つ。 ・授業においても、テスト直し、復習の重要性を意識させてきた。 ・スタディサプリ等の導入の検討を行う。
	(3) 基礎的課題研究に取り組みせ、主体的な学習への意識を高めさせる。	B	・学年全体で足並みを揃えて取り組むことが出来ており、生徒達も主体的に取り組む様子が見られた。 ・コロナの影響で予定が大幅に崩れた。 ・グループ個々に対し、研究の進め方の指導を丁寧に行い、次年度につなげる。
3 一人ひとりの志望と適性を生かした進路指導を進める。	(1) 適性検査、面談、オープンキャンパス等を通して個々の適性を把握し、生徒の進路意識を高め、適切な類型選択ができるようにする。	B	・オープンキャンパスに行けなかった影響は大きいと感じる。 ・生徒が進路のことをよく話題にしているのを聞きます。先生方の指導のお陰で生徒が進路について真剣に考えているのだと思います。 ・面談を通じて、最後まで納得のいく選択ができるよう指導を続けたい。 ・オンライン上でのオープンキャンパスや、学部紹介を生徒に案内し、参加するよう促したい。

	(2) 校外模試の実施、小論文や英検の指導を通して、進路実現に向けた基礎学力の養成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試など外部のものだけでなく定期テスト前後の勉強会などで、個別に対応するシステムがあり、基礎学力養成に大いに役立てられたと思います。</li> <li>英検の全員受験がなくなり、とても残念。</li> <li>模試や小論文が進路を考える意識付けになっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎分野が身につけていない生徒へのフォローを学年だけでなく、進路指導部や学習指導部とも連携を図りながら行う。</li> </ul>
--	---	---	--

## 10 2学年

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、容儀指導を計画的に実施し、生徒が自主的に制服を正しく着用できるようにさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に実施しているが、より自主的に正しく制服を着用させたい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も容儀指導を定期的に行い、共通理解を図る。</li> </ul>
	(2) 学校行事や部活動等の特別活動を継続して奨励し、充実した高校生活を送らせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策を講じつつ、修学旅行を実施できた。生徒の満足度も高い。</li> <li>C l a s s iをもっと活用できたら良かった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も感染症対策を徹底し、できる限り行事を実施できるよう工夫する。</li> <li>C l a s s iについては課題等の配信を含め、より機能を活用できるようにする。</li> </ul>
2 主体的な学習習慣を身につけさせ、学力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の主体的な家庭学習時間を3時間以上確保させ、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習時間が十分に確保できていない。予習・復習の習慣も十分に確保されていない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を工夫することで、授業が「わからない」ということを無くし、学習意欲を向上させる。</li> </ul>
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせ、学力の向上を図らせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストが多く、復習が不十分になっているため、次のテストに活かせていない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>スモールステップを実施する。</li> </ul>
	(3) 課題研究に継続して主体的に取り組ませ、探究学習への意欲を高めさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定変更が多く、やや遅れているが意欲的に取り組んでいる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>副担任の先生方もよりかかわれるよう工夫する。</li> </ul>
3 一人一人の志望と適性に合った進路指導を進める。	(1) 進路指導的行事・LHR・総合的な学習時間の指導や面談などを通して進路意識を高め、具体的な進路選択が出来るようにさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談や講演会等を行うことで、多くの生徒が進路意識を高めることができた。その一方で、進路意識の低い生徒もいる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>翔南1日大学に準じる行事を実施し、進路意識の高揚につなげる。</li> </ul>
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検等の指導を通して、早期の進路意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通りに実施できているが、進路実現のために実施するということを意識させる。</li> <li>S-C B TやC B Tの受験を積極的に進める。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く指導し、現役生は最後の最後まで伸びることを伝え、目標の到達に向け、意識を高く持たせ続ける。</li> </ul>



## 1 1 3 学年

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 最上級生としてふさわしい生活態度とリーダーシップの育成を図る。	(1) 全教職員の共通理解のもと、頭髪・服装容儀指導を計画的に実施し、規則を遵守する態度の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通理解を図ることができ大旨良好であった。一部の生徒の制服がみだれていた。</li> <li>引き続き全職員の共通理解を図る。</li> </ul>
	(2) 様々な学校行事を通して、最上級生としてのリーダーシップの育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの学校行事が中止となる中でもよく努力した。全体的に落ち着いた態度で下級生の模範となった。</li> <li>次年度の継続も検討する。</li> </ul>
2 適切な学習習慣の習得を図る。	(1) 十分な学習時間を確保させることにより、授業中心の受験態勢の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナによる休校に対しての危機感があったのか全体的によく学習していた。</li> <li>早期からの学習習慣の確立ができるよう、早め早めの意識付けが大切である。</li> </ul>
	(2) 校内・外部模試の分析を通して、進路実現のための意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内模試と外部模試の結果の分析を通して、新傾向の入試への情報共有が上手くできた。</li> <li>新傾向の入試に向けた具体的な取り組みをもっと早くから始める。</li> </ul>
3 生徒の志望・適性に合った進路指導を図る。	(1) 面談等の多くの機会を設定し、生徒が希望する進路を正確に把握し、適切な助言をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談はこまめに設定し、生徒理解に努めた。今年から担任する生徒に対して、春の面談がきちんと出来なかったのが残念。</li> <li>面談を短時間でもこまめにやっていく。</li> </ul>
	(2) 進路指導部と協力し、生徒の進路研究を充実させ、進路選択に十分な資料を提供する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍によるリモートオープンキャンパスやweb出願等によく対応できた。限りある資料の中から適切な情報を提供できた。</li> <li>学年と進路でもっと共通理解を図り、時期に応じた資料を提供できるように心がける。</li> </ul>

## 1 2 国語科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒が効果的な学習法を確立できるように指導する。	(1) 適宜学習法に関するガイダンス（全体・個別）を行い、試験後や学期末などに実践と成果について振り返りの機会を持たせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ガイダンス（1年）は例年通りの実施とはいかなかったものの、試験後の不振者課外を初め、学習法の指導と点検を随時行った。</li> <li>教材の意図とそれぞれに応じた効果的な使用法をガイダンスし、生徒にその成果と課題を常に意識して学習に取り組むよう働き掛ける。</li> </ul>
	(2) 課題により学習の習慣化を図り、自主的な学習につながる指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予復習や週末課題の指示を通して、生徒の学習の習慣化を促した。多くの生徒はこれにより安定した学習リズムを形成できていた。</li> <li>クラス全体の学習リズムに乗り切れない生徒への働き掛けを続けると共に、特に上位生徒には与えられた学習課題+αの意識を持たせる。</li> </ul>
2 基礎学力の定着および記述力の向上を図る。	(1) 小テストを活用して漢字・語句（現代文）や文法・句法（古典）などを継続的に学習する機会を設け、基礎学力の	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の計画に随時修正を加えながら実施できた。生徒の取り組み姿勢は良好だったが、十分な知識の定着にまでは至らない者も目立った。</li> </ul>

	定着を図る。		・小テストをきっかけに学習したことを定着させるよう、授業でその知識を活用する機会を設けるなど指導計画を工夫する。
	(2) 思考力を鍛え、長文の記述に対応できる力の向上を意識した授業展開と作問を工夫する。	B	・授業中に長文記述を求める学習活動を設定するのは難しかったが、その分試験の作問や演習課題（週末課題）などで配慮して機会を設けた。 ----- ・大学入学共通テストや模擬試験の問題研究を進め、思考力・記述（表現）力を鍛える授業での発問や試験の作問を工夫する。

### 1 3 地歴・公民科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 地歴・公民科の教員が一体となって指導に当たることで、生徒の学習意欲の喚起と学習習慣の定着を図る。	(1) 2年目となる文化探究について、昨年度の反省を踏まえて授業のあり方を確立するとともに、各科目においても探究活動の充実に努める。	B	・今年度はグループ活動を実施できなかったが、個人の探究活動については各担当者が工夫して実施した。 ・探究活動に活用できる図書を購入した。 ・教科書・資料集を使用した調べ学習を、授業や課題に取り入れた科目もあった。 ----- ・図書の活用方法について情報共有する。 ・引き続き、探究活動の充実にについて検討する。
	(2) 教科会を活用して生徒の情報交換に努め、生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の定着を図る指導法を共有する。	A	・他学年、他科目の状況を概ね把握できた。 ・生徒の実情について情報共有を行うことができた。 ----- ・今後も継続する。
2 生徒の基礎学力の向上を図るとともに、大学入試に対応できる学力を身につけさせる。	(1) 今年度から実施される大学入学共通テストに備えて、授業やテスト問題の作成、課外のあり方などを教科内で共有し、生徒に信頼してもらえる指導法を確立する。	B	・各科目で、図表等の資料問題や根拠を選択させる問題を取り入れてテストを作成した。 ・出題内容と結果の分析が不十分であった。 ・授業・テスト作成時に使用する素材をストックしたが、活用方法の検討が不十分であった。 ----- ・科目ごとの出題内容と結果の分析、情報共有を行う。 ・ストックした素材の活用方法を検討する。
	(2) 基本的事項の確実な定着を図るため、小テストを計画的に実施し、成績不振者に対しては教科面談等を実施する。	A	・計画通りに小テストを実施することができた。 ・成績不振者に対する教科面談をある程度実施できた。 ・科目によっては、成績不振者に対する補習授業を実施できた。 ----- ・小テストの不合格者を出さないよう、授業の進め方・指導方法を工夫する。 ・補習授業の実施方法について検討する。

### 1 4 数学科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 家庭学習の習慣化を促し、基礎学力の向上と、考える力を身につけさせる	(1) 予習・授業・復習といった学習のサイクルの習慣化を促し、週末課題の提出を徹底させ、主体的に学習できるように導く。	B	・5月までの休校により、授業が進度優先になりすぎてしまった。 ・予習を含め意欲的に取り組む生徒と不十分な生徒との差が見られた。 ----- ・シラバスに沿った授業計画の詳細な指示や課題の提示方法など具体的な指導を実施する。 ・提出率の低い生徒には理解度の応じた課題の出し方を検討する。

	(2) 必要な場面・状況で習熟度別授業を行い、個々の生徒に応じた教材を提供し、学力向上へとつなげる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業を実施し、生徒の能力に応じた授業を展開することができた。</li> <li>計画的に教科面談をすることができなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も習熟度別を展開し、学力の向上につなげて行く。</li> <li>学期に1回程度計画を立てて必要な生徒に教科面談を実施する。</li> </ul>
2 生徒の学習意欲を高め、進路実現に向けた実践力を養う。	(1) 土曜課外・平常課外の時期と内容を検討し、多くの生徒が主体的に参加するよう計画的に実施し、効果が上がるよう努力する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が主体的に参加することができた。</li> <li>途中で欠席が続く生徒も一定数出てしまった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>課外の重要性や生徒にとって目に見える効果を提示できる工夫をする。</li> </ul>
	(2) 大学入学共通テスト(数学)において得点率を全国平均に近づけられるよう、効果的な指導をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な教材を選定し、いろいろな問題に触れるよう指導し生徒のやる気を向上させた。</li> <li>以前までとは出題形式が大きく違うため、使用する問題集の検討を重ね、効率的に指導できるものを選んだ。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストに対応できるように、読解力や思考力を磨く問題を1年次から計画的に指導していく。</li> </ul>

## 15 理科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 科学的な興味関心を喚起するとともに、授業内容の充実を図る。	(1) 理科への興味関心を高めるため、日常生活との関連をふまえた授業の展開を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>休校で授業時数が例年より少ない中でも、日常生活との関連をふまえながら、理科への興味関心を高める授業展開がおおむねできた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も情報収集に努め、教科書と日常生活とを関連付けた授業をしていく。</li> </ul>
	(2) 意欲的、主体的な学びの実現を図るために、実験や観察を効果的に取り入れる。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>休校による授業時数の不足や感染対策(器具、実験室の三密の回避など)などの理由により、予定していたが実施できない実験が多かった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策や三密を回避した実験方法を検討していく。</li> </ul>
2 生徒の進路実現のために、積極的な支援を行う。	(1) 各学年、クラス担任との連携を図りながら、理科系進学に関連する情報を提供して進路意識の早期確立を後押しする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の授業内容から大学の授業の関連性を話題にあげて、理系の興味関心を高めることができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、各クラス、進路指導部との連携を密にとり、1年生の授業の中で、有益な情報を提供して2、3学年へとつなげる指導を展開していく。</li> </ul>
	(2) 外部関係機関との連携を図りながら、宇都宮大学高大連携講座や翔南サイエンスツアーの企画運営を行い、生徒の進路選択の一助となるよう支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルス感染症の影響により、翔南サイエンスツアーは開催できなかったが、高大連携実験講座は、実施方法の検討により開催することができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も実施方法を検討しながら開催していく。</li> </ul>

## 16 保健体育科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
------	-----	----	-------------------

1 健康・安全に対する意識の涵養と体力の向上を図る。	(1) 授業に向き合う姿勢を見直し、集団行動のマナーを身につけさせる。 ・集合時間の厳守 ・体育委員の役割の徹底	A	・始業チャイム前に集合し、挨拶・準備運動が徹底できていた。 ・生徒自ら準備運動出来るように継続して指導していく。
	(2) 体力の向上を目指して、スポーツテストの結果を踏まえたトレーニング法を工夫する。 ・体力の著しい低下を防ぐ工夫をする。	B	・コロナ自粛中に体力づくりカードを配布・回収するなどして、生徒の意識づけができた。 ・感染症対策をしながら一人でできるトレーニングの種類を増やしていきたい。
2 体育施設の管理を徹底し、有効的な活用を図る。	(1) 授業・部活動・行事等で体育施設を使用する場合は、関係する分掌・学年・顧問などの連携を図りながら円滑に使用できるようにする。	A	・学年、その他と連携を図り円滑に体育館などの施設を使用することが出来た。 ・それぞれの運動部の顧問と連携を取りながら円滑に使用できるように心がける。
	(2) 体育施設の管理を確かなものにするために、点検・施錠・清掃等、適切な取り扱いを徹底する。 ・長期休業中における清掃担当の割り振り ・施錠の徹底	B	・まれに施錠忘れを指摘されることがあったが、ほとんど良くできていた。 ・主な施錠場所に「施錠済み」と表示をする。各部活動に声かけをし、最終確認を行うように心がける。

## 17 芸術科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基礎的・基本的内容の充実を図りながら、生徒一人一人の興味・関心を深め、芸術の良さや美しさを深く味わいながら意図に基づいて芸術活動を充実させる。	(1) 指導内容を精選し、表現活動の質をさらに高められるような授業の実践に努める。	A	・コロナ禍で授業時間が削減された中で、短時間で評価できる内容で活動できた。また、昨年度よりも表現活動を高める部分についてのアクティブラーニングを取り入れた学習に力を入れることができた。 ・今年度の内容を生かし、さらに充実した活動に向けて教材研究を行う。
	(2) 表現活動及び鑑賞活動の相互の関連を図り、意図に基づいて創造的な学習をより活発に行うことができるよう努める。	B	・表現活動・鑑賞活動をそれぞれ実施することはできたが、関連性を図った活動への繋げ方が課題となった。 ・鑑賞での気づきを表現活動に生かすアプローチについて教材研究を行う。
2 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、豊かな情操と創造力を培う。	(1) 活動の喜びを得るとともに、生涯にわたって芸術に親しむ態度や習慣を身に付けるよう指導する。	A	・友人と協働しながら、楽しんで意欲的に取り組む姿が多く見られた。1人1人真剣に活動に取り組んでいた。 ・習熟度の低い生徒へ、机間指導の中でさらに丁寧に指導できるように心がける。
	(2) 音楽・美術・書道の文化的・歴史的背景、我が国の伝統芸術などへの関心や理解を深められるよう指導する。	B	・音楽については、日本独自の音階について平安時代の雅楽に関連させて学習できたが、さらに深い学びに繋がられるようにしていきたい。 ・日本の歴史の変遷に伴った、芸術文化の変容について、さらに内容を工夫していく。

## 18 英語科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 進学に向けた英語の基礎学力、応用力をつける。	(1) 生徒が、自学自習を習慣化できるように指導する。また、各学年段階での指導を工		・小テストを適宜実施したり、予習復習に使うプリントや週末課題を用意することによって、自学自習を促すことができた。

	夫し基礎の定着から応用力へと結びつけられるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の休業中の影響が大きく、自学自習ができた生徒とそうでない生徒の差が広がった。</li> <li>・文法の基礎基本の徹底を低学年ではかるべきではないか。</li> <li>・中位・下位の生徒には個人的な指導などで伸長をはかる必要がある。</li> </ul>
	(2) 大学入学共通テストの問題を良く研究し、生徒が対応できる力がつくように指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行テストの問題形式をよく研究し、適切なテキストを選択し、繰り返し演習を行った。</li> <li>・配点の高くなるリスニングの指導に力を入れた。</li> <li>・生徒が特に苦手とする大問については、プリント等を用いて補充を行った。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に行われた共通テストでさらに問題の分析を行い、効果的な演習を行えるよう工夫する。</li> </ul>
2 英語のコミュニケーション能力を伸ばす。	(1) 生徒が授業中に、英語でコミュニケーションを行うように支援し、学習意欲を高める指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Team-Teaching (TT) で Speaking や会話のテスト、グループでの課題発表等を実施し、評価に加えることができた。</li> <li>・コロナ禍でペアワーク等がやりにくかったが、機器やアクリル板の使用などでなるべくアクティブな授業を心がけた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍におけるコミュニケーションの方法をさらに工夫していかなければならない。</li> </ul>
	(2) 指導科目、内容に応じて使用言語の適切な選択を行い、生徒、教員ともに、英語を発話する機会、量を増やす。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で途中から常駐 ALT がいなくなり TT ができない時期があったが、JTE (日本人英語教員) ができるだけ英語で発話するよう心がけた。</li> <li>・コミュニケーション英語 I や時事英語等の科目では、教員も生徒も英語の発話が多かった。</li> <li>・進度の遅れを取り戻すため余裕がなく、英語での発話が少ない科目もあった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や科目にもよるが、できるだけ英語で発話するよう工夫する。</li> </ul>
3 資格試験、弁論大会などへの参加を奨励する。	(1) 資格試験受験の準備、実施を計画的に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回英検では本会場受験を奨励し、本校で希望者を取りまとめて出願した。また二次試験対策を放課後十分に実施し、一次合格者の大部分を二次でも合格させることができた。</li> <li>・コロナの影響で、英検第3回の準会場での1～2年生全員受験は叶わなかったが、CBT またはS-CBT での受験を奨励した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館で購入した問題集の活用等も含め、外部検定試験の方式や新型コロナの状況に対応した指導法を考える。</li> </ul>
	(2) 学年行事としての英語スピーチ大会、プレゼン大会の内容的向上をはかる。また校外行事参加者の指導を充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年校内スピーチコンテストは実施した。常駐 ALT がいないため添削や指導等がたいへんだったが、他校の ALT を審査員に呼ぶなどの工夫をして行った。生徒たちは熱心に取り組んでいた。</li> <li>・2年校内プレゼン大会は、休校のための進度の遅れ等を考慮し中止となった。</li> <li>・1年生2名が県英語弁論大会南部地区予選に出場した。よい経験になったと思われる。</li> <li>・2年生1名が県国際理解英語弁論大会で最優秀賞を獲得し、関東大会に出場することができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の校内スピーチコンテストとプレゼン大会については、新型コロナの状況や ALT の配置等を考慮し、実施の可否や時期などを検討する。</li> <li>・校外行事へは、引き続き参加を奨励し、充実し</li> </ul>

た指導を図る。

## 19 家庭科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力を育む。	(1) 指導内容の精選を行い、生活活動に関わる事柄について関心を持ち、知識・技術の定を図れるようわかりやすい授業を展開する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画表を見直し、授業内容の精選を図った。身近なテーマを題材設定にすることで関心を持ち、基本的な知識の定着は図れた。技術面においては、例年よりも実習回数は少ない状況ではあったが、自ら活動できるようになり、目標は大旨達成できた。</li> <li>2単位の授業の中で効率よく授業展開ができるよう、更に授業内容を検討する。</li> </ul>
	(2) 自立した消費者を目指し、消費者教育の一層の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元毎に消費と環境を関連づけ、授業展開を図った。実際の消費活動を題材に、昨年よりは授業の工夫を図ることができた。</li> <li>今後SDGsと関連づけ、更に改善を図る。</li> </ul>
2 実践的・体験的学習を通し、生活事象を科学的に考える力を高める。	(1) 実験・実習等の体験的学習を重視し、思考力・実践力を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・実習等の体験的な学習は例年より少ない時間数となってしまったが、大旨思考力や実践力を高められた。</li> <li>感染症の対策を行った上で可能な実験・実習の内容や方法を検討していく。</li> </ul>
	(2) 事前準備から事後指導を適確に行い、注意事項の周知徹底を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前準備に時間をかけ、実験・実習を円滑にできるように心がけた。事後指導面で課題が残った。</li> <li>安全・衛生面での指導を徹底させた上で、全体指導と個別指導を繰り返し行っていく。</li> </ul>

## 20 情報科

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の興味関心を高め、情報活用の実践力を高める。	(1) 文書処理ソフトを活用しながら、情報機器の基本的な使い方や情報機器を利用するときの注意点を理解させ、実践力を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>Word を利用して文書作成を行い、ほとんどの生徒が必要とされる力を身に付けた。</li> <li>個々の生徒のスキルに応じた指導をしていく。</li> </ul>
	(2) 実技の時間を増やし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、情報を収集・処理・表現し、受け手に発信ができるような力を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>Excel、PowerPoint を用いて実技の演習を行い、表計算をおおむね理解でき、情報を発信する力を養えた。</li> <li>苦手な生徒へはもう少し細かな指導をしていく。</li> </ul>
2 情報社会に参画する態度を養う。	(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題、および個人の責任について理解させ、情報社会の一員としての能力と態度を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、DVD を用いて SNS 等で起こるトラブルについて考えさせることができた。</li> <li>今後も DVD を用い、年度の早い段階で情報モラル教育を行う。</li> </ul>